

ごとう通信

第 58 号

平成 17 年 10 月 1 日

今年も偶然にも新聞に縁があり、8月、9月と読売新聞、毎日新聞に僕たちのことが掲載されました。しかも結構大きく扱っていただいたおかげで皆さんからもいくつか反響があつてうれしかったです。毎日新聞からは、「選挙期間中ですから掲載日が変更することもあります。」と言われてしまったので宣伝することも出来ず…。それでも掲載日は父親の友人という方や患者さんのご家族から「おめでとう」とメッセージをいただきました。そこでようやく、新聞に載るといふことは「めでたいこと」なのだということに気づきました。

また、以前もご紹介しましたが、僕がパーソナリティーをやっているラ

ジオ番組（秋田や岐阜、山口など）へも、「先生のお顔を新聞で拝見しました！」とのお手紙。全国紙の力はさすがですね。

ただ、ここで皆さんに種明かし。全国紙の「ひと」のコーナーに掲載されるなんてよほどのことでないといえませんが、実は、以前「介護予防」という取材に協力をさせていただいた記者の方と、どうすれば訪問歯科診療をする歯医者が増えるかという話題になったとき、「誰かが教育すると言っても歯医者はそのなりのステイタスもあるので難しい。それよりも、野茂が大リーグに行ったの



を見て誰もがカッコいいと思い、それを目指してイチローや松井が海外

に渡ったのと同じように、訪問歯科診療をやる姿がかっこよければ絶対に人は育つはず。僕は歯科界の野茂になりたい。」と言ったのがきっかけなんです。今回の記事を見て、全国で一人でもいいから真剣に訪問歯科診療に取り組む若者が出てくると良いなあと思っているのですが、「野茂ほどの手本にならない」と言われてしまうと一言も返せません。

噛む力

僕たちの本職は、皆さんにしっかりと食べていただくことです。しかし、最近気づいたことは、歯科は食べられる環境づくりまででは出来るのですが、具体的な方法、つまりリハビリに関しては大変遅れているということなんです。もちろん、外来診療にいられている若い方たちであれば、痛みを止